

カラフル♡ハート Colorful♡Heart

2023年10月6日(金) No.2

文責：道徳教育推進教師 千々岩

☆前期の道徳授業の実践☆

夏休み中に第1号を発行しましたカラフルハート。今回は、前期の道徳科での授業実践についてご紹介いたします。

以前、学校だよりでも校長先生から紹介がありましたが、1学期は授業公開として、5年3組(水田先生)、4年1組(千々岩)、2学期は、2年1組(山口先生)で研究授業を行いました。道徳科の学習において、子どもたちが物事を多面的・多角的にとらえ、自己の生き方について考えを深めることができるようにこれからも実践を積んでいきたいと思えます。

☆5年～家族のためにできること～「卵焼き」☆

「卵焼き」というお話について

このお話は、卵がまだ今のように容易に手に入らず、高価なものだった時代のお話です。主人公の由紀が、遠足前日の夕方、大好きな卵焼きをお弁当に入れてほしいと一方的に頼みます。しかし、卵を切らしていた事情で、父も母も我慢するように話しますが、納得のできない由紀は泣きじゃくりながらそのまま眠りについてしまいます。遠足当日、お弁当を開けてみると入っていないはずの卵焼きが入っていました。それは、父が夜遅く、遠くの知人宅に行って分けてもらった卵であったことを遠足から帰った後、母親から聞きます。自分のためにそこまで心配してくれた両親への思い、家族のありがたさ、敬愛の念。そうした由紀への共感を通して、家族の思いや家族との関わりについて考えることのできる話です。



はじめに、「家族愛とは何か?」「家の手伝いをすることは大切だと分かっているができないときはどんなときか」について問い、現段階における家族愛について考えていきました。



教材を読んでいるときの児童の様子です。主人公のことを思い浮かべながら、集中してしっかりと聞くことができます。

☆4年～友達と信頼し合う～「大きな絵はがき」☆

「大きな絵はがき」というお話について

このお話は、料金不足の定形外郵便をもらった主人公の広子が送り主である正子に、そのことを伝えるかどうかを迷うお話です。広子は、母の「お礼だけ言っておいたほうがいい」という言葉と、兄の「ちゃんと教えてあげたほうがいい」という考えの間で揺れ動きます。料金が不足していることを相手に伝えるか伝えないかを考えることを通して、友達だからこそ、どうすればいいか悩む広子の気持ちに気づき、友達と互いに理解し、信頼し、助け合っていこうとする態度を養うのに適した話です。



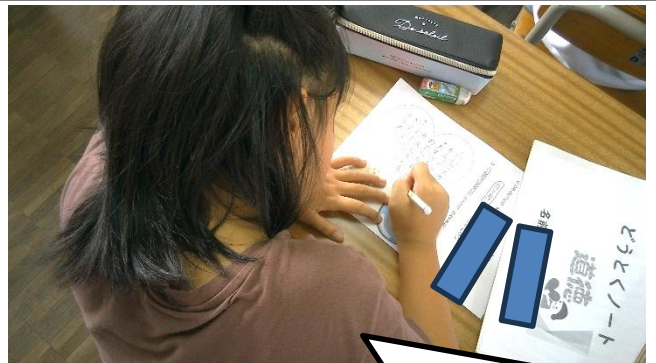
本時のテーマは「本当の友情とは何だろう」としました。あなたが広子の立場なら、「料金不足を伝える」か「伝えない」かを考えることを通して、真の友情について考えていきました。

それぞれの立場に立った理由を発表しました。意見交流を通して、どちらの立場にも、友達である「正子」を思う気持ちがあることに気づきました。

☆2年～友達と信頼し合う～「かっぱわくわく」☆

「かっぱわくわく」というお話について

主人公のかっぱの「かんすけ」が、元気と勇気がわく「わくわく水」を頭の皿に入れて出かけます。途中、かんすけは困っていた子ぎつね、小鳥にわくわく水を分けてあげます。親切にするかんすけに対し、早く遊びに行きたい友達の「すっく」と「ざんざ」でしたが、帰り道に迷った3人は子ぎつねや小鳥に助けられ、相手に親切にする大切さに気づきます。その後、すっくとざんざがかんすけに「わくわく水」を分けてあげた理由を考えることを通して、親切な行動は、お互いに喜びが生まれることに気付くことができる話です。



「親切」は大切だと分かっているけれど、いつでも・どこでも・だれにでも行うことは難しいですね。自分がかんすけの立場だったら、大切なわくわく水を分けてあげますか？その理由を友達と交流してみましよう。

これからクラスでどんな親切をしていきたいかを考えました。そのあと、友達と考えを交流し合い、いろいろな親切ができることに気づきました。